

朗 読 文

山の中で一人で食事をする時に、黙って食べ始めるか、それとも、自然に普段のように「いただきます」と言うか。そんなことを話し合ったことがあるが、黙って食べ出すのはなんとなく格好がつかないということ、みんな、小さい声でも「いただきます」と言っているようだった。長い間の習慣で、箸を持つとそういう言葉が出てしまうのだろう。

私は外出して、よほどお腹が空いた時には、迷わずそば屋に入っ
て、かけを一杯食べることにしている。そういう場合は、声には出
さずに、箸を割りながら、口の中で「いただきます」と言っている。
いつかそうしてそばを食べていると、同じ食卓の私と向かい合っ
たところに、小僧さんという感じの若い人が座った。注文した物が
きて彼は箸を取ると、かなり大きく、はっきりした声で「いただき
ます」と言った。うっかり声を出してしまったようで、私に対して
少々具合悪そうにしていたが、私は妙に嬉しかった。それで、私は
彼より先に食べ終わったところで、はっきりと「ごちそうさま」と
言って席を立った。

四方月ばかり仕事で日本に滞在していた外国人が、国へ戻る前に
私の家を訪ねた。全く付き合いもない人であったが、話をしている
うちに夕方になったので、ありあわせのもので食事を一緒にしたが、
その時に、その外国人は「いただきます」と日本語で言った。
滞在中に日本語はほとんど覚えなかったが、これだけは大変いい言
葉だから覚え、国へ帰ったら家族に教えて、食事の前には必ず言う
ようにするのだと言っていた。